



文責 本宮小学校長 佐久間仁

少年の主張



二十三日(日)にサンライズもともやにおいて、本宮市青少年健全育成推進大会が開催されます。この大会は、学校・家庭・地域が一体となって青少年健全育成市民運動の充実を図ることを目的として行われます。大会の第一部では、市内の小・中・高校生が日頃考えていることや感じていることを、「少年の主張」として発表します。第二部では、記念講演としてSDGsサイエンスショーが予定されています。入場は無料ですが、どなたでも観覧できますので、ご都合のつく方はお越しください。

〔少年の主張作文(本宮小代表)〕

あいさつが人の輪を広げる

六年 高西 耀太

みなさんは、日常の中でどれくらいあいさつをしていますか？朝、昼、夜、様々な場面であいさつをすることがあると

思います。

ぼくは、日常の中でだれとでもあいさつすることを意識して生活した方がよいと考えます。

ぼくの学校には、代表委員会があり、毎日朝のあいさつ運動を行っています。

ぼくも四年生の時に代表委員会に所属し、あいさつ運動を行いました。

その時にぼくは、あいさつは人と人をつなぐ大切なものであると感じました。そう感じた理由が三つあります。



一つ目は、みんなにあいさつをすることで、やりがいを感ずるということです。

あいさつ運動で昇降口に立っていると、大きな声であいさつを返してくれる人がたくさんいました。元気いっぱいあいさつが返ってくると、「今日も一日がんばろう。」と明るい気持ちになれます。

また、あいさつが返ってくると、自分のあいさつが相手に届いていると安心し、自信がもてるようになります。あいさつをすることで、ポジティブな気持ちになれることが、ぼくのやりがいになっています。

二つ目は、あいさつには空気を変える力があるということです。実際に、ぼくが通う本宮小学校では、全校生一丸となりあいさつに取り組んでいるところがあります。言葉にするあいさつや会しゃくなど、場面に応じたあいさつを意識してすることで、あいさつする方もされる方も気分

がよくなると感じています。またあいさつをする、目と目が合うので、笑顔になり、その場のふんい気が明るくなります。あいさつをすることで、まだ話したことがない人とも顔を合わせるきっかけとなり、明るいふんい気が広がっていきます。

三つ目は、あいさつはぼくたちの生活の中にある重要なコミュニケーションの手だねであるということです。初めてあいさつをする時には、少しのきんちよう感と同時に、あいさつの声の大きさや明るさ、表情から「この人はどんな人なんだろう。」と人に興味をもつきっかけになります。実際、ぼくが小学校に入学した時は、友達にどんな声をかければよいのか分からず困っていました。しかし、「おはよう。」とあいさつをすると、友達も、「おはよう。」



と返してくれて、話ができるようになりました。今でもその友達と仲良く学校生活を送ることができています。そこからあいさつをする友達の輪が広がり、学校生活を支えてくれる仲間がたくさんできました。あいさつで広がる輪は学校だけではなく、地域の方や学校以外の施設でもコミュニケーションをとるための第一歩になっています。このように、あいさつを介して日ごろからコミュニケーションをとっておくと、災害が起きた

などの非常時にも助け合える人の輪をつくらることができます。共に生活をしている人、初めて会う人、同じ地域に住んでいる人、国籍がちがう人、様々な人がつながるあいさつは、やはり大切にしていくべきだと思います。

中には「あいさつがなくても、必要になれば会話はできる。」「毎日くり返す必要はない。」と考える人もいます。しかし、ぼくの経験から、あいさつこそ毎日の積み重ねが大切だといえます。明るいふんい気を生み出し、顔と顔を合わせることで、人と人との輪を広げていきます。人と人との輪が広がれば、日常がさらに豊かになるだけでなく、非常時にも助け合いの輪を広げることにつながります。みなさんも、今の生活だけでなく、これからやってくる未来の生活を考えてみてください。そうすると、人の輪を築いていくために、日ごろからあいさつを大切にしていこうという気持ちになるはずです。ぼくも、これまで以上に相手の顔を見ることがや声の明るさを意識しながら、相手の心に届くあいさつをしたいです。



お知らせ(お願い)

◇明日は、十八時よりベルマーク集計作業を行います。PTA本部役員、学年委員、専門委員の皆様、お忙しい中ですが、ご協力をお願いします。